

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

8月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,364.40 (3日)	1,309.25 (31日)
国内建値(円/g)	: 4,475 (1日)	4,300 (26日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 100.78 (18日)	104.18 (31日)

8月の海外金相場は1日に\$1,348.85/toz(トロイオンス)と前月末からやや反発してスタートした。前月29日発表の米国内総生産(GDP)が米市場予測を下回ったことからドル売りが広がり、金相場は上昇基調となった。上旬では、ドル安や日米欧の株安傾向等を背景に堅調推移、\$1,360水準まで上昇し、約1か月半ぶりの高値となった。

ところが、5日発表の7月の米雇用統計が市場予想を上回ったことを受け、年内の米利上げの可能性が改めて意識されたことで、ドル高が復活、金相場は前月末以来の\$1,330水準へ後退した。しかし、中旬入りすると、同時期発表された米経済指標が相次いで市場予想を下回ったことで、米利上げ機運が消滅、再び金に買いが集まり、\$1,350前後まで上昇した。15日以降は利益確定の売りが出て反落する場面がみられたものの、米利上げに絡んだドル安から買われ\$1,340~1,350水準で小浮動推移した。

下旬入りすると、ドル安基調は続いていたものの、米国の地区連銀総裁が早期利上げに前向きな姿勢を示したことから、上昇基調が一服、週末の26日のイエレン米連邦準備理事会(FRB)議長の講演を控え、\$1,330前後の小動きに終始した。だが、その26日のイエレン議長の講演で「米雇用が改善し、追加利上げの条件は整ってきた」と述べたことから、ドル高が進展、同日後場では\$1,318.75まで下げ、前月末以来の安値をつけた。月末でもこの流れは変わらず、31日には\$1,309.25と本年6月以来の安値をつけて越月した。

2. 為替相場推移

8月の為替相場は1日に\$1=103.45円(TTS相場、以下同じ)と円高値圏でスター

トした。前月 29 日発表の米国内総生産(GDP)が米市場予測を下回ったことで、円買い・ドル売りが広がり、円高値でのスタートとなった。上旬にかけては原油相場の下落や日米欧で続く株安傾向を背景に円が上昇気味で推移した。

8 日には 5 日に発表された 7 月の米雇用統計で雇用者数が大幅に伸びたことを受け、早期の米利上げ観測が再浮上し、円が反落した。しかし、12 日に発表された米経済指標が相次いで市場予想を下回り、米早期利上げ観測が後退したことで、円買い・ドル売りが復活、15 日には再び \$1=102 円水準に達した。16 日以降も米連邦準備理事会(FRB)は利上げ慎重との見方が根強く、円買い・ドル売りが優勢となった。更には 17 日に円が対ドルで 6 月 24 日以来の高値をつけると、翌 18 日には \$1=100.78 円と 2013 年 11 月以来 2 年 9 か月ぶりの円高・ドル安水準となった。これは 17 日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が公表した 7 月会合の議事要旨からは米利上げ時期が判断しにくいとの見方が強まり、低リスク通貨の円が買われたためであった。

下旬入りすると、米長期金利が上昇し、日米金利差の拡大を見込んだ円売り・ドル買いが出たことで、円は僅かだが、\$1=101 円水準へ反落した。さらに 26 日にイエレン FRB 議長が講演で追加利上げに意欲を見せたことで、ドルが急上昇、31 日には \$1=104.18 円とほぼ 1 か月ぶりの円安・ドル高水準をつけて越月した。

8 月の対ユーロでの円は、対ドルとは異なり €1=114~115 円での小動きとなったが、月末ではドル高と歩調を合わすように €1=116 円水準へ反発した。

【国内】

1. 建値推移

8 月の国内金山元建値は 1 日に 4,475 円/g(グラム)と前月末より低下してスタート、これが月間最高値となった。これ以降、月末まで、海外相場の緩やかな下げと円高基調から、建値はほぼ一本調子で下げ続けた。17 日に 4,400 円水準を下回ると、26 日は 4,300 円丁度と月間最安値をつけるとともに、本年 6 月以来の 2 か月ぶりの安値となった。週末の 29 日からは為替相場が円安に転じたことで反発、31 日には 4,374 円をつけて越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2016 年 7 月分=平成 28 年 7 月分)

生産	:	8,828 kg	(前月比 15.7%減、前年比 18.3%減)
出荷	:	7,959 kg	(前月比 22.6%減、前年比 17.7%減)
在庫	:	6,068 kg	(前月比 16.7%増、前年比 29.9%増)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

7 月の生産は前月比、前年同月比ともマイナス。出荷は円建て金価格の上昇から大幅減、前年同月比も 2 か月連続の減。在庫は出荷減から前月比、前年同月比とも増。前年同月比は 7 か月連続の増。本年 3 月以来の高水準。

銅

【海外】

2016年8月のLME銅相場は米国の早期利上げ観測、ドル高、在庫急増を背景に月初の\$4,900/t水準から下旬にかけて\$4,600 際へと軟化傾向を辿った。

米国経済は第2四半期GDP成長率が前期比1.2%増と市場予想を下回ったが、個人消費は堅調で、7月の非農業部門雇用者数は255千人増と市場予想を大幅に上回り、失業率も4.9%で横ばいとなるなど好調を継続した。このため、早期利上げ観測が強まり、ドルは高水準を継続した。ところが、17日に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)の7月会合の議事録では大半の委員が9月利上げに慎重な姿勢を示したことが判明したため、ドルはいったん反落した。

しかし、その後も新築一戸建て住宅販売が2007年10月以来の高水準を示すなどドル高要因が根強く、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長は26日、「米国経済はFRBが目標とする最大雇用と物価安定に近づいており、利上げへの論拠が強まってきた」と発言し、ドルが再び反発した。

中国経済は7月の製造業景気指数(PMI)が国家統計局統計では5か月ぶりに50を割り込んだのに対し、財新マークイットでは2015年2月以来の50超えとなり見方が分かれ、鉱工業生産指数(IIP)、固定資産投資、小売売上高は前年同月比で増加したがいずれも市場予想を下回った。

銅独自の要因としては、LME在庫が22日から31日にかけて64千tも急増し、305千tと昨年10月以来の300千t台乗せとなった。夏季不需要期を背景とした中国筋によるロングポジションの手仕舞い売りによるものとみられ、在庫増は韓国、シンガポール倉庫に集中している。

供給障害要因としては、アントファガスタミネラルズが8月8日、ロスペランブレス銅鉱山(チリ)エルマウロ・テイリングダムの撤去命令を無効とする控訴審判決を勝ち取った。下級審が2015年3月、ダム計画が地元地域の飲料水供給を阻害するとして堤防の撤去を命じる判決を下し、同社は控訴していた。控訴裁は水理学専門家による「ダム計画はプピオ河口からカイマネス地区への水流確保に関する最高裁決定を満たしている」との分析結果を採用した。同社は今年5月、地元住民と用水、安全対策、地域開発問題について合意している。

グレンコアのグラセンバークCEOは8月24日、子会社カタンガマイニング(コンゴ民主共和国)の銅、コバルト生産を2018年の早い時期に再開する見通しを示した。生産水準は300千t/年。グレンコアは昨年9月、債務削減計画の一環としてカタンガマイニングの操業を18か月間停止すると発表していた。しかし、コモディティ価格が依然として回復していないため、操業停止期間を延長する。

チリ鉱山省地質鉱業局(SERNAGEOMIN)は8月30日、コデルコのチュキカマタ銅鉱山とフリーポートマクモランのエルアブラ銅鉱山に操業停止命令を下した。同日、チュキカマタ鉱山では作業員輸送車と鉱山トラックの衝突事故で2名が死亡、4名が負傷した。エルアブラ鉱山では鉄道貨車と硫酸輸送車の衝突事故で1名が死亡、3名が負傷した。31日、チュキカマタ鉱山はオープンピット採掘以外の部門の操業を再開し、エルアブラ鉱山も部分再開した。

PTフリーポートインドネシアのグラスベルグ銅金鉱山(インドネシア)で8月30日、労働者1名がコンテナ運搬車に轢かれ死亡した。事故現場は原因調査のため封鎖された。

需給状況については、国際銅研究会によれば、2016年1~6月の世界の銅鉱石生産は前年同期比4.4%増8,111千t、地金生産は3.5%増の9,592千t、消費は5.5%増の9,814千t、この結果、地金需給バランスは前年同期の▲39千tから▲222千tへと供給不足幅が拡大した。報告在庫は9.9%減の1,378千t、在庫/消費比率は3.3週間から2.8週間に低下した。

鉱石生産の内訳は精鉱が5.5%増加、SXEWは横ばいであった。国別には過去2年間に新規稼働と能力増強のあったペルーが52%増加したほか、カナダと米国が回復、メキシコが能力増強により、モンゴルはオユトルゴイ鉱山の立ち上げにより増加した。しかしながら、チリは5%減少し、コンゴ民主共和国は各社減産により11%減少した。地域別にはアメリカが7%、アジアは5%増加したが、アフリカは4%減少し、ヨーロッパ、オセアニアは横ばいであった。鉱山稼働率は84.1%から83.8%に低下した。

地金生産の内訳は一次生産が3%、二次生産は5%増加した。国別には中国が7%、米国は18%、チリと日本は3.5%増加したが、コンゴ民主共和国とザンビアは減産のため減少した。地域別にはアメリカが8%、アジアは6%、オセアニアは17%増加、アフリカは15.5%、ヨーロッパは3.5%減少した。精製工場の稼働率は82.2%から83.5%に上昇した。

消費は中国の見掛け消費が12%増加した。ネット輸入が22%増加したことによるもの。中国を除く世界の消費は横ばいであった。地域別にはヨーロッパが6%、アジアは8%増加(中国を除くアジアは2.5%減少)、アフリカは20%、アメリカは4%減少、とオセアニアは横ばいであった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

8/1 550 8/4 530 8/18 520 8/25 510 9/1 520

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2016年7月分=平成28年7月分)

生産 : 135,100t (前月比 3.0%増、前年比 2.3%増)
出荷 : 138,550t (前月比 0.5%減、前年比 1.2%減)
在庫 : 98,378t (前月比 2.7%減、前年比 8.6%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

平成28年7月の銅地金生産は前月比3.0%増、前年同月比2.3%増の135.1千tと3か月ぶりの前年同月比増となった。出荷は前月比が0.5%減、前年比は1.2%減の138.6千tでそれぞれ2か月ぶり、3か月ぶりの減少。内訳は内販が82.7千tで前月比は0.5%増と2か月連続の増加、前年比は4.5%減で再び減少した。輸出は55.8千tで、前月比は1.9%減と3か月ぶりの減少、前年比は4.1%増で4か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年比8.1%減の51.3千tと14か月連続の減少、伸銅品向けは11.0%増の27.7千tで2か月連続の増加となった。在庫は前月比2.7%減、前年比8.6%減の98.4千tでそれぞれ2か月連続、10か月連続の減少となった。

3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、平成28年7月の銅電線出荷は前月比1.3%増、前年同月比6.6%減の56.8千t(推定)と8か月連続の前年比減となった。うち内需は前年比7.0%減の54.9千tで13か月連続の減少、輸出は8.3%増の1.9千tで8か月ぶりの増加。内需の部門別には、自動車は3か月連続、その他内需は2か月、通信は6か月ぶりに増加したが、電力は4か月、建設電販は5か月、電気機械は22か月連続の減少となった。

日本伸銅協会によれば、平成28年7月の伸銅品生産は前月比3.8%減、前年同月比0.4%増の65.9千t(速報)と前年比は3か月連続の増加となった。うち内需向けは前年比0.8%減の54.8千tと3か月ぶりの減少、輸出は6.4%増の11.1千tで2か月連続の増加。品種別には、半導体、コネクタ、自動車向けの銅条が前年比で3か月、自動車端子向けの黄銅条は2か月連続で増したが、エアコン向けの銅管は定修の前倒しの影響から4か月ぶりに減少、コネクタ向けの青銅板条は一部メーカーの生産停止(前年8月末)も相まって15か月連続かつ大幅な減少となった。

鉛

【海外】

2016年8月のLME鉛相場は前半の\$1,800/t前後水準から後半は\$1,800台後半へと堅調に推移した。この間、米国の早期利上げ観測やドル高は材料視されなかった。

米国経済は第 2 四半期 GDP 成長率が市場予想を下回ったが、個人消費は堅調で、非農業部門雇用者数は市場予想を大幅に上回り、失業率も 4.9%で横ばいとなるなど好調を持続した。このため、早期利上げ観測が強まり、ドルは高水準を持続した。ところが、米連邦公開市場委員会(FOMC)の 7 月会合の議事録では大半の委員が 9 月利上げに慎重な姿勢を示したことが判明したため、ドルはいったん反落した。しかし、米国経済はその後ドル高要因が根強く、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長は 26 日、「米国経済は FRB が目標とする最大雇用と物価安定に近づいており、利上げへの論拠が強まってきた」と発言し、ドルが再び反発した。

中国経済は 7 月の製造業景気指数(PMI)が国家統計局統計では 5 か月ぶりに 50 を割り込んだのに対し、財新マークイットでは 2015 年 2 月以来の 50 超えとなり見方が分かれ、鉱工業生産指数(IIP)、固定資産投資、小売売上高は前年同月比で増加したがいずれも市場予想を下回った。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2016 年 1~6 月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比 6.8%減の 2,218 千t、地金生産は 2.4%減の 5,161 千t、消費は 3.4%減の 5,124 千t、地金需給バランスは前年同期の▲14 千tから+37 千tへとほぼバランス推移した。

鉱石生産はヨーロッパが 2.7%増加したが、アフリカは横ばい、アジアは 3.9%、アメリカは 1.3%、オセアニアは 33.79%減少した。国別にはオーストラリア、中国、インド、米国が減少した。地金生産はアメリカが 1.2%、オセアニアは 2.8%増加、ヨーロッパは横ばい、アジアは 4.7%、アフリカは 2.0%減少した。国別には中国が減少、カザフスタン、韓国は増加した。消費はヨーロッパが 10.6%増加、アメリカは横ばい、アジアは 8.3%、アフリカは 5.6%、オセアニアは 11.2%減少した。国別にはヨーロッパの増加を中国、米国の減少が相殺した。6 月末の地金の報告在庫は前年同月比 4.4%増の 512 千t、在庫/消費比率は 2.4 週間から 2.5 週間へとほぼ横ばい。

中国は鉱石生産が 3.8%減の 1,037 千t、鉛精鉱輸入は 11.9%減の 363 千t、地金生産は 10.8%減の 1,971 千t、地金のネット輸出は 23 千tから 12 千tに減少、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は 12.8%減の 1,940 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

7/13	250	7/22	259	8/1	244	8/8	239	8/22	248	9/1	253
------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2016 年 7 月分=平成 28 年 7 月分)

生産	:	17,027t	(前月比	2.4%増、	前年比	3.7%減)
出荷	:	17,213t	(前月比	0.3%減、	前年比	5.6%減)

在庫： 24,760t (前月比 0.5%増、前年比 6.9%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

7月の生産は前月比では増加したが、前年同月比は2か月連続の減。出荷は前月比微減、前年同月比も5か月ぶりの減。蓄電池向けが横這いだったことが微減につながった。在庫は2か月ぶりに前月比増だったが、前年同月比は10か月連続の減と減少基調。

3. 需要部門動向

7月の自動車生産台数は前年同月比4.1%減の807,165台となり、2か月連続で前年同月を下回った。

乗用車は前年同月比2か月連続のマイナス、トラックも同15か月連続のマイナス、バスも同8か月連続のマイナスとなった。

7月の自動車輸出台数は前年同月比0.5%減の413,619台となり、3か月ぶりに前年同月を下回った。

一方、7月の二輪車生産台数は前年同月比14.1%減の35,105台と3か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会の調査によると、6月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で1,792千個(前年同月比2%減)と再び低下したが、自動車用以外の鉛蓄電池は620千個(同2%増)と10か月ぶりに増加した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,412千個(同1%減)と3か月連続で低下した。

鉛関連製品生産統計

		6月	7月(速報値)
自動車	数量(台)	804,299	807,165
	前年同月比(%)	99.1	95.9
		5月	6月
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	11,828	16,354
	前年同月比(%)	94.1	99.3

(出所:(一社)日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2016年8月のLME亜鉛相場は\$2,200/t台をから下旬には前年5月以来となる\$2,300台乗せへと堅調に推移した。米国の早期利上げ観測やドル高の影響が需給

ファンダメンタルズ改善予想に相殺された。

米国経済は第 2 四半期 GDP 成長率が市場予想を下回ったが、個人消費は堅調で、非農業部門雇用者数は市場予想を大幅に上回り、失業率も 4.9%で横ばいとなるなど好調を持続した。このため、早期利上げ観測が強まり、ドルは高水準を持続した。ところが、米連邦公開市場委員会(FOMC)の 7 月会合の議事録では大半の委員が 9 月利上げに慎重な姿勢を示したことが判明したため、ドルはいったん反落した。しかし、米国経済はその後ドル高要因が根強く、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長は 26 日、「米国経済は FRB が目標とする最大雇用と物価安定に近づいており、利上げへの論拠が強まってきた」と発言した。

中国経済は 7 月の製造業景気指数(PMI)が国家統計局統計では 5 か月ぶりに 50 を割り込んだのに対し、財新マークイットでは 2015 年 2 月以来の 50 超えとなり見方が分かれ、鉱工業生産指数(IIP)、固定資産投資、小売売上高は前年同月比で増加したがいずれも市場予想を下回った。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2016 年 1~6 月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比 6.7%減の 6,346 千t、地金生産は 4.2%減の 6,648 千t、消費は 6,786 千tで横ばい、地金需給バランスは前年同期の +194 千tから▲138tへと供給不足に転じた。

鉱石生産はアフリカが 2.0%増加したが、アジアは横ばい、アメリカは 1.8%、オセアニアは 51.1%、ヨーロッパは 1.9%減少した。国別には中国が増加したが、オーストラリア、インド、アイルランド、ペルーが減少した。地金生産はアフリカが 4.0%増加したが、アジアは 4.4%、ヨーロッパは 2.9%、アメリカは 5.1%、オセアニアは 5.4%減少した。国別にはインド、アルゼンチン、オーストラリア、米国が減少、韓国が増加した。消費はアジアが 2.8%、ヨーロッパは 3.6%、オセアニアは 17.1%増加したが、アメリカは 15.6%、アフリカは 4.8%減少した。国別には中国ヨーロッパの増加が米国、日本、韓国、台湾、タイの減少に相殺された。6 月末の地金の報告在庫は前年同月比 2.8%減の 1476 千tで横ばい、在庫/消費比率は 5.3 週間から 5.6 週間へとほぼ横ばい推移した。

中国は鉱石生産が 6.3%増の 2,676 千t、亜鉛精鉱輸入は 32.1%減の 410 千t、地金生産は 3,026 千tで横ばい、地金のネット輸入は 113.0%増の 281 千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は 7.1%増の 3,292 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

7/1	268	7/6	265	7/12	271	7/15	283	7/21	292	7/26	289
8/1	280	8/9	283	8/17	277	8/22	283	9/1	289		

8月の建値は鉛同様、小動きに終始した。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2016年7月分=平成28年7月分)

生産 : 38,060t (前月比 19.0%減、前年比 6.3%減)

出荷 : 44,464t (前月比 0.6%増、前年比 13.7%減)

在庫 : 82,902t (前月比 7.2%減、前年比 0.6%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

7月の生産は飯島、安中両製錬所の定修により前月比、前年同月比とも減。前年同月比は12か月連続の減。出荷については内販、輸出とも前月比ほぼ横這いが続き、低調な販売が継続中。販売の低迷さを裏付けるように、前年同月比は9か月連続の減。在庫は生産減から前月比減だが、前年同月比は4か月ぶりの微増。

3. 需要部門動向

7月の鉱工業生産指数は前月比±0.0%、前年同月比 3.8%減の96.9(季節調整済、2010年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は横這い、前年同月比は4か月連続のマイナス。熊本地震などで生産が滞った分を挽回する動きが自動車で見られた一方、化粧品の需要が振るわず化学工業などが低下した。

経産省は生産の基調判断を「一進一退だが、一部に持ち直し」と前月から据え置いた。

7月は15業種中6業種で前月を上回った。輸送機械は前月比1.2%上昇、電子部品は同1.5%上昇した。低下したのは9業種で、化学が同1.4%低下、はん用・生産用・業務用機械も同0.7%低下した。

7月の出荷指数は前月比0.9%増の96.0と2か月連続のプラス、前年同月比は3.8%減と8か月連続のマイナスとなった。

一方、在庫指数は前月比2.4%減の111.2と低下した。在庫率指数は前月比0.9%増の117.1と2か月ぶりに上昇した。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、8月が前月比4.1%の上昇、9月は同0.7%の低下を見込んでいる。

6月の亜鉛めっき鋼板生産(次工程用消費を除く)は前年同月比24か月連続の減と依然低迷。数量も21か月連続の100万t台割れ。

6月の伸銅品生産量は68,546t(確報値、対前年同月比+4.4%)(対前月比+9.9%)、前月から2か月連続の対前年同月比プラスで、増加幅を5%前後にまで拡大した(5月+1.7%、6月+4.4%)。5月に続いて主要三品種は全て対前年比プラス。伸銅品需要は回復基調が続いている。主要三品種のうち、銅条は2か月連続の対前年比プラスで増加幅を拡大。銅管は3か月連続のプラス、2016年2月以降1万tに迫る水準が続く。黄銅棒は2か月連続のプラスで16千t前後まで回復。

黄銅製品では、黄銅条が8,746t(確報値、以下同じ)。対前年比は2か月振りにプラス(+9.2%)で、8千t台後半水準に増加した(前年同月比、内需+7.7%、輸出+25.8%)、黄銅棒は15,831t、前年比+5.4%と2か月連続のプラスとなった(前年同月比、内需+6.9%、輸出▲18.1%)。

亜鉛関連製品生産統計

		5月	6月
亜鉛めっき鋼板	数量(t)	835,684	817,049
	前年同月比(%)	96.4	92.8
黄銅製品	数量(t)	26,064	28,657
	前年同月比(%)	101.2	104.6
亜鉛ダイカスト	数量(t)	1,358	1,571
	前年同月比(%)	87.4	90.4
亜鉛華	数量(t)	4,150	5,227
	前年同月比(%)	94.8	96.3

(出所:経済産業省生産動態統計調査)